

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 第 4 回フォーラム 開催結果

開催概要

日 時：平成 29 年 8 月 9 日(水) 13:00～16:30

参加者：地方自治体：12名（奈良県、長野県、大阪市、堺市）

民間企業等：37名（26社）

事務局：11名（国土政策研究会）

国土交通省：5名（近畿地方整備局）

メンター：1名（近畿情報ワーキング長）

出席者合計 66名

フォーラムの開催結果

- ・ 今回の班別討議を実施するにあたり、施設管理者が抱える維持管理の課題を事前に収集し、「路面下空洞厚さ調査を支援する技術」、「法面点検（目視点検）を支援する技術」、「常時水没している構造物の点検の効率化技術」、「化粧板下の清掃、滞水除去技術」の4テーマについて班別討議を行った。
- ・ 班別討議では、民間企業が有する技術についての情報提供や自治体の抱える課題解決に向けて、活発な情報・意見交換が行われた。
- ・ 参加された企業会員からは、自治体のニーズなど生の声を聞いたことが良かったなどの感想が出され、自治体会員からは、既存技術について新たな知見が得られ、近畿本部フォーラムが有益な場であった等の感想が述べられた。
- ・ 最後に、近畿情報ワーキング長の関西大学坂野教授から、「毎回述べているが、『見にくいから見ない』は管理者として許されない。だからこそ、工夫や努力が必要。社会的にも維持管理の必要性は増大しており、管理者は限られた予算の中でより効率的に点検することが求められる。こうした課題解決に向けて、さらなる技術開発を進めるためには、民間企業間のコラボなども必要である。今後、民間企業には、より具体的な技術の提案を、施設管理者には、技術検証のためのフィールド提供を求め、ニーズとシーズのマッチングを図っていきたい。」とのコメントをいただいた。

班別討議の概要

討議テーマ①

テーマ名	路面下空洞厚さ調査を支援する技術
課題提供者	大阪市、堺市
討議内容	路面下空洞調査について、探査車による非破壊調査では、空洞の深さと広がり は一定確認できるものの、厚さまでは確認できないため、非破壊調査で同時に厚 さを確認できる技術について情報交換が行われた。

討議テーマ②

テーマ名	法面点検（目視点検）を支援する技術
課題提供者	奈良県
討議内容	膨大な道路法面において、崩壊等の恐れがある危険箇所の抽出のためのスクリ ーニング技術や防災カルテの作成等について情報交換が行われた。

討議テーマ③

テーマ名	常時水没している構造物の点検の効率化技術
課題提供者	大阪市
討議内容	常時水没している地下河川（ボックスカルバート、シールドトンネル）や矢板 護岸の点検（コンクリートのひび割れや矢板の肉厚測定）について、目視点検を 支援する技術について情報交換が行われた。

討議テーマ④

テーマ名	化粧板下の清掃、滞水除去技術
課題提供者	大阪市
討議内容	歩道橋・地下道・アンダーパスにおいて、景観等配慮し設置された化粧類（天 井板含む）背面における現場施設の支障物（鳥の巣、糞害、滞水など）状況を鑑 み、点検準備として、近接することが困難な条件下での清掃や滞水除去を行う技 術、対策手法として、鳥の糞を除去する技術、鳥害や滞水を発生させない技術、 点検時に支障物が残置していても詳細点検を行える技術、障害となる化粧板の撤 去などについて情報交換が行われた。



第4回フォーラムの様子